様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　８ 日現在

機関番号：１２１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ０３０８７

研究課題名（和文）対人的楽観性に焦点を当てたメンタルヘルス改善のための統合的アプローチ法

研究課題名（英文）The integrated approach to improving mental health focusing on interpersonal optimism

研究代表者
沢宮　容子（SAWAMIYA, Yoko）

筑波大学・人間系・教授

研究者番号：６０３１０２１５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究で取り上げる「楽観性」という概念は、心身の健康回復やストレス緩和にプラスの影響を与えることが知られており（藤南・園田, 1994；Umstattd, McAuley, Motl, & Rosengren, 2007）、Seligman & Csikszentmihalyi (2000) が提唱する「ポジティブ心理学」のキーコンセプトでもある。本研究では、人間の潜在的な可能性を広げることを目的に、対人的楽観性に焦点を当てたメンタルヘルス改善のための統合的アプローチ法について検討したところ、一定の効果が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
近年、各種の健康障害のリスクファクターとして、メンタルヘルスの悪化が危惧されており（Murray & Lopez, 1996）、その二次的な問題も大きい（Jane-Llopis et al., 2003）ことから、メンタルヘルス改善の重要性はますます高まっている（e.g.,Gillham et al., 2000）。本研究は、ポジティブ心理学に基づいた統合的アプローチ法によるメンタルヘルス改善のための取り組みであり、これによって心理職が担うべき「心の健康教育」のプログラムの発展が期待されるとともに、社会的な意義も高まるものと考えられる。

研究成果の概要（英文）：The concept of "optimism" addressed in this study is known to have positive effects on physical and mental health recovery and stress reduction (Tonan & Sonoda, 1994; Umstattd, McAuley, Motl, & Rosengren, 2007), and is a key concept of "positive psychology" proposed by Seligman & Csikszentmihalyi (2000). In this study, the integrated approach to improving mental health focusing on interpersonal optimism was examined with the aim of expanding human potential, and it was suggested that there was a certain level of effectiveness.

研究分野：臨床心理学

キーワード：統合的アプローチ　楽観性

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

各種健康障害のリスクファクターとして、メンタルヘルスの悪化が危惧されており（Murray & Lopez,1996)、さらに二次的な問題も大きい（Jane-Llopis et al., 2003）ことから、メンタルヘルス改善の重要性はきわめて高い（e.g.,Gillham et al., 2000)。メンタルヘルス改善を目的としたプログラムは日本においても開発され、一定の効果をあげている（e.g.,寺嶋他、2017；沢宮、2013)。また、Duckworth et al.（2005)は、人間のポジティブな側面に焦点を当て、人間の潜在的な可能性を拡げることをめざす肯定的介入が、メンタルヘルス改善につながることを示唆している。本研究では、人間の潜在的な可能性を拡げることをめざし、対人的楽観性に焦点を当てたメンタルヘルス改善のための統合的アプローチ法について、特に「動機づけ面接（Motivational Interviewing)」導入の効果に焦点を当てて検討を行った。

なお、本研究で取り上げる楽観性（楽観的）という概念は、Abramson, Seligman, & Teasdale（1978）が、無力感の克服策として楽観的な期待の有効性を論じたことで注目され、実証的な研究が重ねられてきた（e.g., Boyer、2006；Seligman、1991；戸ヶ崎・坂野、1993)。心身の健康回復やストレス緩和にプラスの影響を及ぼすとされ(e.g.,藤南・園田, 1994;Umstattd, McAuley, Motl, & Rosengren, 2007)、Seligman & Csikszentmihalyi（2000）が提唱したことで知られる「ポジティブ心理学」のキーコンセプトでもある。

また、動機づけ面接とは、協働的なスタイルの会話によって、相談者自身が変わるための動機づけを高め、行動変容を促す方法である（Miller & Rollnick, 2013 原井他訳 2019)。動機づけ面接の効果については多くの実証研究がなされ、当初の対象であった飲酒や薬物使用だけでなく、喫煙、ギャンブル、健康増進、育児などの様々な行動についても、有効性が示された（Lundahl et al., 2010)。「行動変容を促す」という特徴から, 非常に汎用性の高い方法であるとされている（沢宮・佐藤、2023)。

２．研究の目的

本研究の目的は、対人的楽観性に焦点を当てたメンタルヘルス改善のための統合的アプローチ法の効果、特に「動機づけ面接」導入の効果を明らかにすることであった。

３．研究の方法

抑うつ得点が基準値以下の大学生および大学院生を実験参加者とし、変化への

動機づけのアセスメントおよび動機づけ面接導入の効果について検討を行った。

スクリーニングのための抑うつ状態を把握するためには、Beck Depression Inventory（以下、 BDI とする）の日本語版（林・瀧本，1991）の 21 項目を使用し、最近の抑うつ状態について回答を求めた。評定は 4 段階評定で行った。BDI では 17 点から臨床的なうつ状態の境界とみなされるため、抑うつのスクリーニングのために使用することが適切と考えたからである。なお、本尺度は大学生を対象とした調査で信頼性と妥当性が確認されている（林・瀧本，1991）。

また、実験参加者の募集は、授業の前後やサークルなどで、募集用紙の配布や口頭での説明によって行われた。

なお、動機づけ面接導入の際の面接者は、約 25 年から 30 年の臨床歴があり、国際的な動機づけ面接トレーナーネットワーク（Motivational Interviewing Network of Trainers）のメンバーになった後、5 年以上の臨床歴を有する者とした。

また、動機づけ面接による援助段階では、行動変容に関する発話を促進するための援助を行い（Miller & Moyers，2006）、分析にあたっては、コーディングの評価基準として Motivational Interviewing Skill Code 1.1（Glynn & Moyers，2009）を参考にするとともに、「課題分析（岩壁，2008，2010）」の手法を用いることとした。面接は録音され、音源は個人情報を含まない形でスクリプト化された。

４．研究成果

人間の潜在的な可能性を拡げることを目的に、対人的楽観性に焦点を当てたメンタルヘルス改善のための統合的アプローチ法、特に統合的アプローチ法における「動機づけ面接」導入の効果について検討を行ったところ、一定の効果が示唆された。

世界的に感染が広がったCOVID-19は、感染者のみならず非感染者のメンタルヘルスにも悪影響を及ぼすことが明らかになっている（Vindegaard & Benros，2020）。このような人々を含め、さまざまな問題を抱える人たちが、メンタルヘルスを改善し、より満足のいく人生を送ることができるよう支援することが重要であるのは言うまでもない。本研究は、ポジティブ心理学に基づいた統合的アプローチ法によるメンタルヘルス改善の取り組みであり、これにより、心理職が担うべき「心の健康教育」のプログラムとしての発展も期待できると考えられる。

また、本研究によって、ポジティブ心理学と動機付け面接を組み合わせたPP-MI（Positive Psychology-Motivational Interviewing）介入（e.g., Celano et al., 2019）についても示唆を与えることができると考えられる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計37件（うち査読付論文　35件／うち国際共著　5件／うちオープンアクセス　6件）

１．著者名 佐藤洋輔・沢宮容子	４．巻 39
２．論文標題 LGBにおける性的指向と関連した体験：マイノリティ・ストレスに焦点を当てて	５．発行年 2021年
３．雑誌名 心理臨床学研究	６．最初と最後の頁 26-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 鈴木康之郎・能渡真澄・ 田中　圭・沢宮容子	４．巻 47
２．論文標題 対人問題の困難さと重要な他者に対する役割期待のずれ，精神状態との関連	５．発行年 2021年
３．雑誌名 応用心理学研究	６．最初と最後の頁 12-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 田中　圭・宮前淳子・沢宮 容子	４．巻 21
２．論文標題 浅い関係で用いられるスキルが対人疲労感に及ぼす影響	５．発行年 2021年
３．雑誌名 学校カウンセリング研究	６．最初と最後の頁 49-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 生田目　光・鈴木公啓・沢宮容子	４．巻 46
２．論文標題 青年期前期女子におけるボディ・アプリエーション,身体認識,ダイエット行動の関係性	５．発行年 2021年
３．雑誌名 応用心理学研究	６．最初と最後の頁 264-270
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 久保尊洋・沢宮容子	4．巻 20
2．論文標題 パッションがスマートフォン依存，精神的健康，不眠傾向に与える影響	5．発行年 2021年
3．雑誌名 学校心理学研究	6．最初と最後の頁 129-137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 久保尊洋・沢宮容子	4．巻 17
2．論文標題 パッションが自動思考を介して人生満足感と抑うつに与える影響	5．発行年 2021年
3．雑誌名 ストレスマネジメント研究	6．最初と最後の頁 89-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 沢宮容子・佐藤洋輔	4．巻 47
2．論文標題 心理臨床における動機づけ面接	5．発行年 2021年
3．雑誌名 精神療法	6．最初と最後の頁 663-669
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 鈴木康之郎・田中　圭・白砂佐和子・沢宮容子	4．巻 93(2)
2．論文標題 対人問題インベントリー短縮版の作成および信頼性・妥当性の検討	5．発行年 2022年
3．雑誌名 心理学研究	6．最初と最後の頁 （印刷中）
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 生田目　光・猪原あゆみ・浅野良輔・五十嵐　祐・塚本早織・沢宮容子	4．巻 92
2．論文標題 日本語版幸せへの恐れ尺度と日本語版幸せの壊れやすさ尺度の信頼性・妥当性の検討	5．発行年 2021年
3．雑誌名 心理学研究	6．最初と最後の頁 31-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 生田目　光・八島 禎宏・沢宮容子	4．巻 70(2)
2．論文標題 児童のポジティブボディイメージを育成するプログラムの効果	5．発行年 2022年
3．雑誌名 教育心理学研究	6．最初と最後の頁 （印刷中）
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 生田目　光・滝本　鈴・沢宮 容子	4．巻 40(1)
2．論文標題 教師における3種類のコンパッションとコーピング、バーンアウトとの関連	5．発行年 2022年
3．雑誌名 心理臨床学研究	6．最初と最後の頁 （印刷中）
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 久保尊洋・瀬在　泉・佐藤洋輔・生田目　光・原井宏明・沢宮容子	4．巻 48(2)
2．論文標題 動機づけ面接の中核的スキルはスマートフォン使用についてのチェンジトークを引き出すか	5．発行年 2022年
3．雑誌名 認知行動療法研究	6．最初と最後の頁 （印刷中）
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Namatame Hikari、Yamamiya Yuko、Shimai Satoshi、Sawamiya Yoko	4．巻 40
2．論文標題 Psychometric validation of the Japanese version of the Functionality Appreciation Scale (FAS)	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Body Image	6．最初と最後の頁 116～123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.bodyim.2021.11.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 青木みのり・村上彰美	4．巻 28
2．論文標題 心理学専攻大学院生による学校サポーター－と公立中学校スクールカウンセラーとの協働～10年間の相談室活動から得られたチーム連携の重要性 ～	5．発行年 2022年
3．雑誌名 日本女子大学大学院人間社会研究科紀要	6．最初と最後の頁 61－76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐藤桂奈・青木みのり	4．巻 19
2．論文標題 自己肯定感を高めることを目的とした心理教育授業の実践事例－公立中学校における公認心理師実習の一環として－	5．発行年 2021年
3．雑誌名 日本女子大学生涯学習セ ンター心理相談室紀要	6．最初と最後の頁 11－21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 渋澤智美・青木みのり	4．巻 27
2．論文標題 中学校の友人グループ内における同調行動についての検 討－関係流動性と自尊感情の影響	5．発行年 2021年
3．雑誌名 日本女子大学大学院人間社会研究科紀要	6．最初と最後の頁 63-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kobori, O., Sawamiya, Y., Yoshinaga, N., Rowe, A.C., & Wilkinson, L.L.	4．巻 62
2．論文標題 Investigation of attachment orientation, affect regulation, and depression	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Psychologia	6．最初と最後の頁 63-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2117/psysoc.2020-B005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 田中圭・沢宮容子	4．巻 46
2．論文標題 浅い関係で用いられるスキルが行動活性化に与える影響	5．発行年 2020年
3．雑誌名 応用心理学研究	6．最初と最後の頁 139-148
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 生田目光・猪原あゆみ・浅野良輔・五十嵐祐・塚本早織・沢宮容子	4．巻 92
2．論文標題 日本語版幸せへの恐れ尺度と日本語版幸せの壊れやすさ尺度の信頼性・妥当性の検討	5．発行年 2021年
3．雑誌名 心理学研究	6．最初と最後の頁 31-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4992/jjpsy.92.20206	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 生田目光・鈴木公啓・沢宮容子	4．巻 46
2．論文標題 青年期前期女子におけるボディ・アプリシエーション， 身体認識，ダイエット行動の関係性	5．発行年 2021年
3．雑誌名 応用心理学研究	6．最初と最後の頁 264-270
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 久保尊洋・沢宮容子	4．巻 17
2．論文標題 パッションが自動思考を介して人生満足感と抑うつに与える影響	5．発行年 2021年
3．雑誌名 ストレスマネジメント研究	6．最初と最後の頁 ー
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 ー

1．著者名 久保尊洋・沢宮容子	4．巻 20
2．論文標題 パッションがスマートフォン依存，精神的健康，不眠傾向に与える影響	5．発行年 2021年
3．雑誌名 学校心理学研究	6．最初と最後の頁 ー
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 ー

1．著者名 田中 圭・宮前淳子・沢宮 容子	4．巻 21
2．論文標題 浅い関係で用いられるスキルが対人疲労感に及ぼす影響	5．発行年 2021年
3．雑誌名 学校カウンセリング研究	6．最初と最後の頁 ー
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 ー

1．著者名 鈴木康之郎・能渡真澄・田中 圭・沢宮 容子	4．巻 47
2．論文標題 対人問題の困難さと重要な他者に対する役割期待のずれ，精神状態との関連	5．発行年 2021年
3．雑誌名 応用心理学研究	6．最初と最後の頁 ー
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 ー

1．著者名 佐藤洋輔・沢宮容子	4．巻 39
2．論文標題 LGBにおける性的指向と関連した体験：マイノリティ・ストレスに焦点を当てて	5．発行年 2021年
3．雑誌名 心理臨床学研究	6．最初と最後の頁 ー
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kobori, O., Sawamiya, Y., Yoshinaga, N., Rowe, A.C., & Wilkinson, L.L.	4．巻 63
2．論文標題 Investigation of attachment orientation, affect regulation, and depression	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Psychologia	6．最初と最後の頁 (in press)
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Namatame, H., Yashima, Y., & Sawamiya, Y.	4．巻 33
2．論文標題 Psychometric properties of the Japanese version of the Body Appreciation Scale-2 for Children (BAS-2C)	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Body Image	6．最初と最後の頁 7-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.bodyim.2020.01.0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Namatame, H., Fujisato, H., Ito, M., & Sawamiya, Y.	4．巻 16
2．論文標題 Development and validation of a Japanese version of the Emotion Regulation Questionnaire for Children and Adolescents	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Neuropsychiatric Disease and Treatment	6．最初と最後の頁 209-219
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2147/NDT.S211175	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Swami, V., Tran, U. S., Barron, D., Afhami, R., ...Sawamiya, Y... & Argyrides, M.(外94名)	4．巻 32
2．論文標題 The Breast Size Satisfaction Survey (BSSS): Breast size dissatisfaction and its antecedents and outcomes in women from 40 nations	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Body Image	6．最初と最後の頁 199 - 217
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.bodyim.2020.01.0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 生田目光・沢宮容子	4．巻 37
2．論文標題 適応的調和食行動尺度(IES-2)の日本語版作成	5．発行年 2019年
3．雑誌名 心理臨床学研究	6．最初と最後の頁 238-248
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kubo Takahiro、Sawamiya Yoko	4．巻 89
2．論文標題 Reliability and validity of the Japanese version of the Passion Scale	5．発行年 2018年
3．雑誌名 The Japanese journal of psychology	6．最初と最後の頁 490～499
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4992/jjpsy.89.17205	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Sato Yosuke、Sawamiya Yoko	4．巻 89
2．論文標題 Testing mediation effects of homosexual and bisexual's interpersonal factors and response styles on mental health	5．発行年 2018年
3．雑誌名 The Japanese journal of psychology	6．最初と最後の頁 356～366
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4992/jjpsy.89.17018	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 小堀　修・吉永尚紀・沢宮容子	４．巻 １１
２．論文標題 完全主義は心理的援助へのアクセスを妨げるか――大学生アスリートの援助希求を妨げる心理的要因の研究――	５．発行年 2018年
３．雑誌名 認知療法研究	６．最初と最後の頁 23-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 小島弥生・浦上涼子・沢宮容子	４．巻 43
２．論文標題 体型に関わる損得意識と痩身願望――男女青年の比較による検討――	５．発行年 2018年
３．雑誌名 応用心理学研究	６．最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 生田目光・上田寛子・沢宮容子	４．巻 4
２．論文標題 イラショナル・ビリーフが情動知能の成長感に及ぼす影響	５．発行年 2018年
３．雑誌名 REBT研究	６．最初と最後の頁 3-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 井古田大介・井古田希美・奥野誠一・沢宮容子	４．巻 4
２．論文標題 イラショナル・ビリーフが自己受容に及ぼす影響	５．発行年 2018年
３．雑誌名 REBT研究	６．最初と最後の頁 13-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 沢宮容子	４．巻 １８
２．論文標題 認知行動療法は「心理療法の統合」という視点からどう見えるのか	５．発行年 2018年
３．雑誌名 臨床心理学研究	６．最初と最後の頁 77-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計2件

１．著者名 沢宮容子	４．発行年 2019年
２．出版社 文光堂	５．総ページ数 896
３．書名 下山晴彦（編）公認心理師技法ガイド（セルフモニタリング、認知再構成法）	

１．著者名 沢宮容子・原井宏明	４．発行年 2018年
２．出版社 医歯薬出版株式会社	５．総ページ数 208
３．書名 吉内一浩（編）日常診療に役立つ行動医学・心身医学アプローチ（動機づけ面接）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	岩壁　茂 (IWAKABE Shigeru) (10326522)	お茶の水女子大学・基幹研究院・教授 (12611)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	福島　哲夫 (FUKUSHIMA Tetsuo) (60316916)	大妻女子大学・人間関係学部・教授 (32604)	
研究分担者	青木　みのり (AOKI Minori) (80349175)	日本女子大学・人間社会学部・教授 (32670)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関